

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3470204680		
法人名	株式会社 ウェル		
事業所名	グループホーム こもれび		
所在地	広島県広島市佐伯区五日市七丁目8番43号		
自己評価作成日	平成22年5月12日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは五日市の中央部に位置し住宅地の静かな環境である。建物は全館バリアフリーの鉄筋3階建てで日当たりも良い。有料老人ホームやデイサービスを併設し各施設との連携も取れている。希望者にはデイサービスでの習字等にも参加頂いている。共同生活が困難になられた時は有料老人ホームの入居も可能となっている。毎月3ユニット全員でお食事会をし閉鎖的にならない取り組みを行っている。隣接の医療機関が母体で提携病院となっており、緊急時の対応をしている。健康相談医が毎週訪れ、健康管理や職員・ご家族へのアドバイス等医療面のサポートをしている。併設の施設で栄養士・調理員が食事を作り提供しているため、ゆったりと過ごせている。その時間を利用し、リハビリやレクレーションに力を入れている。恒例の秋祭りは好評で、多くのご家族に参加頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hksjks.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療福祉近代化プロジェクト		
所在地	広島市安佐北区口田南四 - 46 - 9		
訪問調査日	平成22年5月21日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	5項目の理念を各フロアに掲示し、朝の申し送り時に、理念・年間フロア目標を唱和している。管理者と職員は、毎月の会議を通じ、理念に沿った介護がなされているかの確認をしている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内清掃、盆・暮れの挨拶等、地域の方と、日常的に交流している。事業所内の秋祭り等に地域の皆様を招待している。また町内の秋祭りには、町内神輿が来て下さるなど、良好な交流が行なわれている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との日常的な交流の中で、認知症についての理解を深めて頂いている。又、認知症についての悩みや介護方法について個々の相談にのっている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議を実施し、ご家族・町内会・地域包括支援の方々、積極的に意見交換を行なっている。運営推進会議のご意見等は各会議にて報告し、サービスの向上に活かしている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所は、市町村の担当者より助言を頂いたり、市町村の研修会に参加させて頂く等、市町村と共に、サービスの向上に取り組んでいる。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを各階に整備している。職員は、拘束の具体的な行為を理解し拘束しないケアの実践に取り組んでいる。玄関は安全面への配慮からテンキーとなっているが、要望があれば見守りの元で開錠している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や新人研修等を通じ、虐待についての理解を深め、虐待が見過ごされないよう注意し、防止に努めている。		

グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成人後見制度について研修や勉強会で学んだことを、必要な方にお知らせし、成人後見制度を活用できるよう支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時には、重要事項説明書等により十分に説明し、理解・納得頂いた上で、契約を結んだり、解約したりしている。改定を行なう際は、運営推進会議で説明し理解を頂いた上で改定している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情処理体制を説明。外部者出席の推進会議でご意見・ご要望を聴いている。日常的にも、ご利用者・ご家族に積極的に声掛けし要望を伺っている。ご意見箱も設置し、運営に反映させている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のフロア会議で出た事案を、リーダー会議や全体会議で取り上げ、職員の意見・提案を運営に反映させている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見や発想を尊重し、実践できるよう努めている。また年間個人目標・年間フロア目標を立てることにより、目的意識や向上心を持って働けるよう配慮している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、受講の申し出により、研修を受ける機会を与えると共に、研修で学んだことを全体会議で発表させる等、職員全体の質の向上を図っている。また、働きながらの資格の取得も勧めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や介護支援専門員自主勉強会へ参加し、同業者との交流を行なっている。他の事業所の取り組みを参考にサービスの質の向上を目指している。		

グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約に至る前に、管理者・フロア担当者が、ご本人と面談し、現状を確認。要望や不安なこと等をゆっくり聴かせて頂く機会を持っている。又、入居前にホームで体験されることを薦めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に聞き取り調査に伺いご家族の思いや不安なこと等を把握し、受け止める努力をしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取り調査等で、入所を希望するに至った経緯を良くお聴きし、入所以外の支援方法も含め、これから取るべき最善の方法をアドバイスするよう心がけている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の得意な事を、我々職員が学ばせて頂くという姿勢により、生きがいや活動意欲に繋げている。また、「介護する側」「介護される側」という関係でなく、共に支えあう関係作りを目指している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力・支えなしでは良いケアは出来ないことを理解して頂き、共に悩みを話し合える関係を築くよう努めている。担当者は、利用者のご様子を毎月書面にて伝えている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで大切にしてきた馴染みの方々に気軽に訪問頂き、居心地良く過ごして頂けるよう配慮している。馴染みの場所へは、ご家族にご協力頂いている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の関係の把握に努めている。又、トラブルが起こらないようご利用者の間に入り、調整しながら、仲良く、支えあう生活ができるよう支援している。		

グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去される際は、『これからも、困られた時はいつでもご相談をお受けする』旨をお伝えしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人おひとりに担当を決め、ご本人の希望や意向の把握に努めている。他のご利用者とのバランスを取りながら、希望を尊重し、本人本位に検討している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お一人おひとりに担当を決め、これまでの生活歴・経過等の把握に努めている。ご家族よりこれまでの生活や幼少期のことをお聴きし、会話に取り入れる等、回想法を実践している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定を行い心身状況を把握。その日の状況に合わせ柔軟な対応を心がけている。毎月連絡表を記入・回覧する事で、どの階の職員も全員の心身状況を把握できるよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意向を確認し、健康相談医の意見を踏まえ、サービス担当者会議で検討し、介護計画を作成している。6ヶ月毎の計画見直しに加え変化が生じた場合は、適宜見直しをしている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別生活記録に、日々の状態や気付き等を記録し、職員間の情報の共有の徹底に努めている。個別生活記録・申し送りノート等を介護の実践、介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症対応型共同生活介護のため、特に行っていないが、状況の変化に伴いより適切な施設・病院等の紹介をしている。		

グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者に活気ある生活を送って頂くため、ボランティアの方々から演奏等の協力を得ている。警察や消防機関と連携・協力をしながら支援を行なっている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の意向に沿ったかかりつけ医を持って頂いている。適切な医療が受けられるよう、かかりつけ医と連絡を取り合いながら支援している。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内に准看護師が1名勤務している。健康相談医も毎週訪れ、介護員からの相談にのっている。又、緊急時には、隣接の提携病院から支援が受けられる体制にある。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、ご利用者が不安になられない様出来るだけ見舞いに行き、病院との情報交換に努めている。又、隣接提携病院に入院の場合は、一時外泊を試みる等、早期退院に向けての取り組みを行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約前、看取りを行っていない旨を説明。重度化した場合の指針をお渡しし、ご理解を頂いている。重度化した場合は、ご家族の意向を尊重し、ご家族・健康相談医を交えて検討を重ね、今後の方針を決めている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応についてのマニュアルを作成し、職員一人一人が応急手当や初期対応ができるよう、提携病院の医師より指導を受けている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により、火災避難訓練を毎年行なっている。また、災害時の緊急連絡網も整備し非常時に備えている。近隣の施設や提携病院とも連携できるようにしている。		

グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録等については個別のファイルに整理し、部外者の目に触れないよう細心の注意をしている。特に入浴やトイレ介助時は、言葉かけや対応で誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	信頼関係を築くことにより思いや希望を自由に話せる環境作りを心がけている。自己決定の難しい方や希望を言葉に表せない方には、表情・態度から思いを汲み取る努力をしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先せず、お一人おひとりのペースを尊重しながら、自然な形で無理なく生活のリズムを保って過ごして頂けるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月2回の訪問理美容を利用し、好みの髪形を楽しまれている。毎朝、職員が身だしなみの支援をしている。ご家族の協力で季節に合せたおしゃれをされている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事作りはご利用者の負担が大きく困難な状況である。隣接施設で作り、盛付・配膳・片付けを一緒に行っている。おやつや月1回昼食作りを楽しんで頂いている。食事は職員と食卓を共にしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録し把握に努めている。栄養士はバランスの良い食事を心がけ、嚥下状態の悪い方には、きざみ食を提供する等、細やかな対応に努めている。午前・午後のお茶の時間等で水分補給をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔内の清潔を心がけ、歯磨き等の支援をしている。異変が認められる場合は、家族の了解を得て、訪問歯科医に診察をお願いしている。		

グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記録することにより排泄パターンの把握に努め、排泄パターンに合せトイレ介助を行なっている。リハビリパンツを使用されている方も、トイレ誘導し排泄を促している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘により認知症の周辺症状が悪化することを理解し水分・食物繊維の摂取、適度な運動といった便秘予防に取り組んでいる。3日以上排便が無い場合は、医師の指示で服薬を行なっている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	通常期は週2回・夏期は週3回入浴して頂いている。体調不良で入浴できない時は清拭にて対応している。入浴を拒否された場合は、翌日入浴して頂く等の配慮をしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明・室温・寝具等で、入眠しやすい環境を整えている。必要に応じて添い寝等の対応をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の内容・用法などを確認し、服薬支援をしている。副作用や注意点、症状の変化等を健康相談医に気軽に聞ける体制作りをしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者が張り合いのある日々を過ごせるよう、毎月の食事会で季節の行事を楽しんで頂いている。また、ドライブや園芸などで気晴らしできるように支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望で庭の畑や散歩等、戸外に出る機会をつくるよう心がけている。遠方への個別の対応は、ご家族の協力により行なわれている。初詣や花見、近隣へのドライブ等に出かけている。		

グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者がお金を持つことの大切さを理解し、希望者には小額のお金を所持して頂いている。必要な物や好みの物をお申し出頂き、買物代行を行なっている。ご自分で買物される機会は少なくなっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族との手紙のやりとりや、電話をかける、取り次ぐ等の支援をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天候に合せ調節できるよう空調設備や複数の照明を整備。居間や食堂は南向きで、窓から畑や田んぼが見え季節を感じて頂いている。季節に合わせた室内飾りや生花等で季節感を取り入れている。住宅地で周辺は静かである。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には、畳スペースやソファを配置し、それぞれの方が思い思いの場所で過ごされている。独りになりたい時には、ご自分の居室で過ごされている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使われていた馴染みの物や、好みの物を持ってきて頂き、居心地良く暮らせるよう工夫をしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっており、各所に手すりを整備している。トイレや各居室は分かりやすく表示する等、安全に出来るだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		